

	11 月				12 月			
	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)
本 年	25.0	20.1	22.4	20.0	20.1	15.5	17.8	156.5
平 年	24.1	18.2	21.1	130.1	20.3	14.6	17.4	103.4
平年との差	+ 0.9	+ 1.9	+ 1.3	-110.1	- 0.2	+ 0.9	+ 0.4	+53.1



新年あけましておめでとうございます。

2020/21年の操業は、昨年同様12月18日より開始しております。

生産農家様・ハーベスタ組合様など関係者の皆様方の御協力をいただき新年早々からのさとうきび刈り取り集荷作業となりますが、お体をご自愛のうえ計画的な工場搬入となります様に、よろしくお願いいたします。

また今製糖期は、新型コロナウイルス対策を念頭に入れた操業になりますことご理解とご協力を、お願いしたいと思います。

本当に早く終息することを願うばかりです。

さて、今製糖期の圧搾計画は、69,000 t と見込み、収穫面積 1,372 ha と面積は確保することが出来ましたが、残念ながら 70,000 t には届かない厳しい状況でのスタートとなりました。

台風10号の直撃また台風14号の風台風による塩害などの影響もあるかと思いますが、生産農家の減少また高齢化による圃場管理不足も要因として考えられると推察します。

そういった状況から数十年ぶりに春植推進期間を設け、少しでも増産につながればと計画致しましたので、春植えや株出管理などしっかり取り組んで頂き来期の増産につながるようご理解とご協力の程よろしくお願いします。

操業開始しまして品質も向上しており、今後の生産量のアップと品質向上を期待しているところです。

工場も操業開始し62期を迎えますが、今後も建屋の補修・設備の老朽化更新・効率化を図った設備投資を進め、島に貢献できる会社になるよう積極的に取り組んでいきます。

最後になりますが、さとうきびの刈り取り搬入に際して安全作業・安全運転を心掛けて頂き生産農家の皆様及び関係者、そして弊社にとっても良い年になりますように連携してまいりますので、本年も宜しくお願い致します。

生和糖業株式会社
取締役工場長 肥 後 剛

さとうきび生産振興大会

12月8日 喜界町自然休養村管理センターにおいて『令和2年度喜界町さとうきび生産振興大会』が生産農家、関係者約150名が来場する中開催されました。

その後、ハーベスタオペレータ研修会を開催、多くの生産農家、関係者にお集まり頂き『農作業事故防止対策について』の講話に引続き実際にHVを囲んでの説明がありました。



今期の操業計画

きび処理見込み	69,000t
搬入圧搾開始	12月 18日
搬入終了予定	3月 27日
操業終了予定	3月 29日
洗缶日予定	2月 11日 12日



ハーベスタを移動する時は周囲に人がいないか十分に確認しよう！

作業開始時に作業者全員に作業方法・安全対策を徹底させよう！

農作業事故ゼロをめざして！

- ※ 体調管理は安全作業の第一歩
- ※ 作業にあった服装や安全保護具着用
- ※ ゆとりをもった無理のない農作業
- ※ 機械や作業場所を事前に整備・点検
- ※ ほ場への進入路や段差には十分注意
- ※ 道路走行では、他の車両に十分注意
- ※ 明るいうちに複数の人間による作業
- ※ 計画的かつ安全な農作業（農作業日誌）

適度な休憩をとり、作業効率向上と安全作業を努めよう！

機械の点検整備・清掃は確実に実施しよう！

後退時はハーベスタ後方の視界が悪いので安全には細心の注意を払おう！

収入保険制度

制度内容

- * 保険期間の収入が基準収入の9割を下回った場合、収入を補てんします。
- * 青色申告している農家が加入出来ます。
- * 台風などの自然災害・病虫害や鳥獣被害などの収入減少や市場価格の減少、植付後のケガや病気収穫出来なかった等の収入減少を補てんします。
- * 農家の生産・販売する農作物の販売収入全体が補償の対象です。

制度内容

さとうきび共済

- * 農家ごとに**基準収穫量**の8割を保証します。**基準収穫量は、農家の過去の単収を元に収穫面積をかけた収穫量の事です。**
- * 共済掛金の55%を国が負担しています。
- * 農家ごとの出荷量・平均糖度により共済金を算定しています。
- * 糖度低下分も共済金に加算されます。
- * 1筆ごとの補償として、1筆全損耕地などに対する補償があります。

詳しい内容などは
農業共済まで！！



大島農業共済事務組合
喜界支所

(0997)
65-3510

春植えしよう！

適期植付けで
単収の確保

梅雨の雨や夏の日照を上手に利用

干ばつの被害は、「圃場の保水力不足」「作物の吸水力不足」によって一層甚大なものになります。干ばつは毎年のように繰り返されますので、夏の干ばつ期前までにさとうきびを大きく育てることが重要で、そのためには早めの植え付け、適正な管理が必要です。そして根を十分に張らせ、梅雨時期の雨を利用できるようにしましょう

1月			2月		3月			4月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬

植付けの適期

春植えは早植えが増収のポイント

カンシャシクイハマキ（さとうきび）



カンシャシクイハマキ成虫



カンシャシクイハマキ幼虫

幼虫の区分



イネヨトウ



班紋がある

カンシャシクイハマキ

生態と被害

さとうきびにおいて、メイチュウ類とは一般的に本種とイネヨトウの2種を指す。カンシャシクイハマキの体色は淡黄色で背中に規則的な班紋がある。一方イネヨトウの体色は紫がかっており、班紋はみられない。カンシャシクイハマキは卵を葉の付け根に1～数卵ずつ産み付けるため、圃場内での芯枯茎の分布は集中しない。

近年、メイチュウ被害を受けている圃場をよく見かけます。収量向上には、茎数確保が絶対条件です。しっかりとメイチュウ対策をして収量を向上させましょう。

農業の基本は土づくり

土づくりは畑に堆肥を入れるだけでなく、
① 土壌の硬さなどの物理性
② 酸度（pH＝ペーハー）などの科学性
③ 微生物量などの生物性
の三つの改良を意識することが重要！

土壌環境が土づくりによって改善されると、作物の根が十分に伸張り、養分や水を効率的に吸収でき、作物の生産が安定し向上する。



メイチュウ類の食害を受けたさとうきび



1. ビレットプランターとは

ビレットプランターは、ハーベスターで収穫した細断茎（ビレット）をプランターのホッパに投入して直接ほ場に植付ける機械です。日本へは2005年頃にオーストラリア製のビレットプランターの導入が始まりました。



ビレットプランターによる植付け作業
ヤビク農機具製

ビレットプランター植付け後のかん水により発芽率が向上します。茎数確保で生産が安定し、収量の確保につながると考えられます。

ビレットプランター植付け後のかん水は、植付けとセットで行うことが望めます。

ビレットプランター植付



ビレットプランターで植付した圃場



ロータリー式覆土装置の付いたビレットプランター
松元機工製



ハーベスターを所有している（複数の）法人とビレットプランターを所有している法人がグループを作り、採苗と植付けを同時進行できるような仕組みを作るといっそう効率的な作業が期待できます。



ハーベスタ採苗とビレットプランタによる植付

ハーベスタ採苗を利用したビレットプランタによる植付技術が確立されれば、採苗・調苗作業が軽減されるとともに適期植付が促進されることで、機械化一貫体系による省力化が進み、さらなる規模拡大が期待される。

種子島では今期初めて、新品種「はるのおうぎ」が新光糖業に搬入された。

「はるのおうぎ」は、茎数が非常に多く萌芽性に優れる株出し多収な新品種である。糖度は、農林8号と同程度で、可製糖量が多い。機械収穫時に生じる株の引き抜きなどにも強いので、機械収穫適性に優れることが期待される。

近いうちに喜界町でも種苗が配布される予定になっている。

「はるのおうぎ」で、さとうきび増産に期待したい！！